

## 不耕起乾田直播栽培における水稲の播種期別生育、収量

### [研究のねらい]

水稲の不耕起乾田直播栽培は、耕起、代かき、育苗、移植作業が不要で春先の農作業が軽減できます。ここでは不耕起乾田直播栽培の播種期が水稲の生育と収量に及ぼす影響を検討します。

### [研究の成果]

品種は「キヌヒカリ」を用い、施肥は被覆肥料による基肥全量施肥としました。

- ①3月10日、4月14日播種では、播種後の気温が低いことから発芽までに時間を要します(表1)。
- ②播種期が早いほど出芽までの期間が長くなり覆土が固まることにより苗立ち数が減少します(表2)。
- ③播種期が慣行移植期の31日前および22日前の5月10日播種と5月19日播種における生育ステージは移植栽培とほぼ同様に推移します(表2)。
- ④玄米収量は3月10日播種区では苗立ち数が少なく、穂数が確保できないことから移植栽培の60%と少なくなりますが、これ以外の播種日では、移植栽培の85~92%の収量が得られます(表2)。

### [成果の活用面・留意点]

- ①不耕起乾田直播栽培では早い時期に播種しても、平均気温が15℃になるまで出芽せず収量も低くなります。6月上旬移植の地域では田植え20~30日前に播種すれば、近隣の水田と生育ステージが同様となり、同時期に入水できます。

表1 不耕起乾田直播栽培における播種期と出芽期の関係

播種期	播種量 (kg/10a)	出芽期 (月.日)	播種~出芽 までの日数(日)	出芽前5日間 の平均気温(℃)
3月10日	8.5	4.24	45	15.2
4月14日	8.5	5.1	17	14.9
5月10日	9.2	5.23	13	19.4
5月19日	8.3	5.26	7	21.8

表2 不耕起乾田直播栽培における播種時期が水稲の生育収量に及ぼす影響

播種期	苗立ち数 (本/m <sup>2</sup> )	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米収量 (kg/a)
3月10日	133	7.24	8.28	275	39.3
4月14日	182	7.26	8.30	350	56.6
5月10日	320	8.7	9.12	470	60.5
5月19日	269	8.8	9.14	383	55.9
移植栽培	-	8.9	9.13	393	65.7

注) 移植栽培の耕種概要

品種: キヌヒカリ、播種期: 5月22日、移植期: 6月10日

栽植密度: 20.8株/m<sup>2</sup>

実施年度: 平成12年度

担当者: 川村和史、浅井良裕